

令和元年度 事業報告

岡山理科大学附属中学校

優れた教育内容を提供し、学んでいる子ども達の学力をさらに伸ばし、難関大学・難関高等学校入試を突破するだけでなく、社会に出て各分野で活躍できる人材を育成に取り組みました。



社会のグローバル化や産業構造の転換等により、個人に求められる能力は変化しつつあります。社会の持続的な発展を支えながらも自らの人生を切り開く力が必要です。そのために、次の項目に重点を置いた教育を展開しました。

○人材形成と学力育成

大きな変化が見込まれる将来に向かって、自己の夢を実現し、目標を達成させるためには、まず、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動する姿勢が欠かせません。

そのため、これまでの知識・技能の教育に加えて、思考力や判断力さらには表現力、そして主体性・論理性という「真の学力の伸長」に取り組みました。また、日々の学校生活を通して、基本的学習生活習慣をつけさせました。

○国際理解と国際力向上

グローバル社会の到来を踏まえ、実用的な英語力の強化に重点を置いた教育を展開し、国際的に活躍できる力の養成を行いました。

○家庭との信頼関係

家庭と学校を繋ぐ生活記録ノートを活用し、生徒個々の家庭と密接に連携し学校内の様子等が伝え信頼関係の構築を進めていきました。

○組織力の向上

教職員間の密なる情報交換と各々の構成員による分析を通して意識改革と組織力の強化を進め、安定した学年運営を行いました。

○経営基盤の安定

生徒確保に向けて学校組織全体で広報活動を強化しながら教育改革を進めました。生徒及び保護者が満足できる学校とするための教育改善を進めるとともに、積極的な広報活動によって経営基盤の安定化を進めました。

私たち教職員一同は、加計学園建学の理念の下、「立志三風」を掲げ、「生活三則」の指導に一丸となって取り組んでいきます。

立志三風

- 一、慎独・去稚心の志風を守る（自主）
- 一、振気・勉学の良風を尚ぶ（努力）
- 一、忠恕・爽凜の美風を養う（友愛）

生活三則

- 一、場を清めましょ
う
- 一、時を守りましょ
ま

岡山理科大学附属中学校 校長 田原 誠

I. 教育について

1. 人格形成と学力育成に関する中期目標		
中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
生徒に対して、立志三風と生活三則を継続的に推進します。【1-1】	<p>■服装指導の実施 服装モットーは「凜とした爽やかさ」です。制服についての規定のものに限らず、全てにおいてTPOに合わせ、清々しさを持った着こなしを指導します。</p> <p>■挨拶の励行 朝のあいさつ運動や職場体験などを通し、気持ちを込めて挨拶ができるように、また、正しい言葉遣いができるように指導します。この指導が面接での自己表現力に繋がるように努力します。</p>	<p>■服装指導の実施 身だしなみについては日頃の HR で生徒に指導しています。靴やかばんが華美にならないように指導しました。</p> <p>■挨拶の励行 毎週水曜の朝に全教員であいさつ運動を実施しました。また、職員室の入退室や先生への話し方について指導しました。この指導が、高校入試の面接試験等に役立ちました。</p>
生徒一人ひとりを尊重し、お互い協力できる生徒作りを推進します。【1-2】	<p>■共通の教育目標 基本的な生活習慣を確立して、集団の中で協力しながら生徒が主体的に活動できる力を身につけるよう指導します。</p> <p>■将来につながるリーダーの育成 体育祭、爽凜祭（学習発表会）、球技大会、オープンスクールなど様々な学校行事は実行委員が主体的に運営しています。生徒が主体的に活動する中で企画力、実践力、思考力などを学び、個々の人間形成力を育成します。</p>	<p>■共通の教育目標 行事や日常の教育活動を通じて集合時間を守ることを注意しました。また、委員会活動や学校行事を通じて集団で協力することを心がけさせました。</p> <p>■将来につながるリーダーの育成 様々な学校行事に実行委員会をたて、主体的な運営が行われました。行事後にふりかえりを行い、各自でポートフォリオにまとめる「自分史プロジェクト」を開始しました。</p>
学力を定着・向上させるための、学びの習慣化を推進します。【1-3】	<p>■クラス編成 今年度入学生からは、SR クラスとして多様な進路志望に対応できるようにし、同じ敷地内にある大学、高校との連携教育を実施することで、より深い見地から専門的な学びが出来るように改編しました。 2・3年生は、高校進学クラス（定員 40 名）と中高一貫クラス（定員 40 名）と 2 種類のクラス編成です。高校進学クラスは、難関公立高校や難関私立高校への進学を目指します。中高一貫クラスは、国公立大学や難関私立大学への進学を目指します。</p> <p>■共通の教育目標 少人数教育を生かして、生徒の学力の向上</p>	<p>■クラス編成 今年度入学生からスタートした SR クラスでは、多様な進路志望に対応できるようにしました。まずは基本的な生活・学習習慣を身につけ、自分の将来について考えるための指導を行いました。 2・3年生は、高校進学クラス（定員 40 名）と中高一貫クラス（定員 40 名）と 2 種類のクラス編成です。高校進学クラスは、難関公立高校や難関私立高校への進学を目指し、3 年生は岡山朝日高校をはじめとする志望校への合格を果たしました。中高一貫クラスは、国公立大学や難関私立大学への進学を目指し、3 年生は岡山理科大学附属高校の中高一貫コースや国際バカロレアコースへの進学をしました。</p> <p>■共通の教育目標 少人数教育を生かして、クラス担任が生徒を細</p>

	を進めます。さらに、国際的な視野を持ちながら、自己の将来を見据えて生徒が進路選択できる力を身につけるよう指導します。	やかに指導し、保護者との連携をとりながら、生徒の学力の向上を進めました。
	<p>■クラス別教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SRクラス（第1学年） 深い学びを通してしっかりとした学力をつけ、自分の進路をしっかりと考えて選択できる力の養成に努めます。 ・高校進学クラス（第2・3学年） 難関高校への進学に必要な学力の養成に努めます。また、高校で求められる、自分の考えをわかりやすく説明できる力の養成に努めます。 ・中高一貫クラス（第2・3学年） 基礎学力を充実させるところから始め、それをふまえて国公立大学や難関私立大学への進学に必要な学力の養成に努めます。また、科学的・論理的な思考能力を高め、探求活動を推進します。 <p>■カリキュラム・シラバス関係</p> <p>(1)SRクラスの授業進度は、中学3年の前期までに原則中学校の学習内容を終え、残りの期間は高校入試対策を含めた中学校内容の復習を行います。岡山理科大学附属高等学校のグローバルサイエンスコースで学習していく上で必要な学力の定着を進めます。</p> <p>(2) 高校進学クラスと中高一貫クラスの授業進度は、原則として3年生前期まではほぼ同じように進めます。3年生後期からは、高校進学クラスの授業では高校入試対策を実施し、中高一貫クラスの授業では一部高校の学習に繋げるための学習を行います。</p> <p>■授業・学習関係</p> <p>(1) 1単位あたり年間35時間の授業時間を確保します。また、行事などで授業時間が確保できない場合があるため、夏期補習期間などを利用して、補充授業を設けます。</p> <p>(2) 夏期・冬期・春期休業期間中に補習を実施します。</p> <p>(3) 令和2年を目途に一部の教科でイメージ教育を実施し、グローバル社</p>	<p>■クラス別教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SRクラス（第1学年） 一日のふり帰りをを行う「帰りの学習」について、クラスによって取り組み方に差が生じているので、来年度改善を図ります。進路LHRなどを通じて自分の進路をしっかりと考えて選択できる力の養成に努めました。 ・高校進学クラス（第2・3学年） 難関高校への進学に必要な学力の養成に努め、3年生は岡山朝日高校をはじめとする志望校への合格を達成できました。 ・中高一貫クラス（第2・3学年） 基礎学力を充実させるところから始め、それをふまえて大学進学を前提とした高校に必要な学力の養成に努めました。また、理科実験や国語の「論理エンジン」を使用した指導を通じて科学的・論理的な思考能力を高めました。 <p>■カリキュラム・シラバス関係</p> <p>(1)SRクラスの授業進度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため3月から臨時休業を行ったため、若干予定より遅れています。次年度に継続して指導します。</p> <p>(2) 高校進学クラスと中高一貫クラスの授業進度は、2年生についてはSRクラスと同様です。3年生については前期まではほぼ同じように進め、後期からは、高校進学クラスの授業では高校入試対策を実施し、中高一貫クラスの授業では一部高校の学習に繋げるための学習を行いました。臨時休業前には予定を終了できました。</p> <p>■授業・学習関係</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休業のため、1単位あたり年間3時間程度の授業時間が不足しましたが、夏期補習期間などを利用した補充授業を設けることで、ほぼ予定通りに実施できました。</p> <p>(2) 夏期・冬期休業期間中に受験対策として補習を実施しました。</p> <p>(3) 一部の教科でイメージ教育の実施については鋭意検討を進めています。</p>

	<p>会に適応できる人材の養成に努め、語学力の向上を図ります。</p> <p>■考查関係</p> <p>成績不振の判定基準点を設け、基準点に達していない生徒への指導を行います。指導期間中の部活動は原則禁止とします。</p>	<p>■考查関係</p> <p>成績不振の判定基準点を設け、基準点に達していない生徒への指導を行いました。指導期間中の部活動は原則禁止としました。</p>
	<p>■校外模試</p> <p>(1) 学習の定着度をはかり、全国との学力比較や各生徒との弱点の把握などのために、校外模試を受験します。</p> <p>(2) 高校進学クラスでは、県内の高校入試対策として県模試等の各種模試を受験します。</p> <p>■自習教室の開設</p> <p>全学年の生徒を対象とし、自学自習の習慣を身につけることを目的に、岡山理科大学と連携し、教員志望の大学生を講師として自習教室を通年で週3日、放課後に開講します。</p>	<p>■校外模試</p> <p>(1) 校外模試として、ベネッセの学力推移調査を受験しましたが、SR クラスにあまり対応していませんので、来年度は見直します。</p> <p>(2) 高校進学クラスでは、県内の高校入試対策として県模試等の各種模試を受験し、生徒の受験指導に役立てました。</p> <p>■自習教室の開設</p> <p>岡山理科大学理学部基礎理学科と連携し、教員志望の大学生を講師として自習教室を通年で週3日、放課後に開講しました。高学年の参加が少なかったため、内容を検討します。</p>
<p>学力を向上させるための、教授法研究を推進します。【1-4】</p>	<p>■授業改善</p> <p>これからの授業に必要とされるアクティブラーニングでの授業や ICT を利用した授業方法、評価方法などの教職員研修会を定期的実施します。さらに、「Classi」（ベネッセ）を利用して、教員間の情報共有を図ります。</p> <p>また、岡山理科大学附属高等学校が取り組んでいる国際バカロレアの教育手法を取り入れて、他者を尊重しながら自分の考えをあらわし深める力や論理的に考えることが出来る力の養成に努めます。</p> <p>さらに、教員の授業力強化のため、ケンブリッジ大学英語検定機構認定西日本試験センターJP176 と連携を継続します。</p> <p>■教科会議・学年団会議の強化・連携</p> <p>各教科において、教科主任を中心とした教科会議を開催し、授業改善等の取り組みを推進し、情報を共有することで、効率的な生徒の学力向上を図ります。また、学年団会議において、生徒の情報を共有することで、的確な指導を行えるよう努力します。</p>	<p>■授業改善</p> <p>アクティブラーニングでの授業や ICT を利用した授業方法、評価方法などの教職員研修会を夏休みに実施しました。さらに、「Classi」（ベネッセ）を利用して、教員間の情報共有を図りました。</p> <p>また、国際バカロレアの教育手法を取り入れて、他者を尊重しながら自分の考えをあらわし深める力や論理的に考えることが出来るための学内の「TOK 研修会」に参加しました。</p> <p>さらに、ケンブリッジ大学英語検定機構認定西日本試験センターJP176 と連携を継続しています。</p> <p>■教科会議・学年団会議の強化・連携</p> <p>教科主任を中心とした教科会議を開催しましたが、非常勤の先生が多いため、定期的な開催が難しいという課題がありました。また、生徒の情報を共有するための中学校担任会議を定期的開催することで、指導に配慮の必要な生徒への共通理解と協力した指導の改善が進みました。</p>

Ⅱ. 学生支援について

1. 生徒支援体制の強化に関する中期目標		
中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
<p>入学から卒業までの支援体制の強化を構築します。【2-1】</p>	<p>■家庭、地域社会との協力・連携強化 中学生専用の定期バスの乗車指導・通学指導などの登下校指導の実施、毎日の生活記録ノートの確認などを通じ生徒の学校生活や地域および家庭での生活をサポートします。</p> <p>■教育相談室・保健室との連携 思春期である中学生期を心身とも健康に過ごせるように、担任や生徒指導課と教育相談室及び保健室が綿密に連絡を取り、連携を強化します。</p>	<p>■家庭、地域社会との協力・連携強化 家庭との連携は、生活記録ノートの利用や担任からの家庭への電話などを継続し、協力が進みました。一方、地域社会との協力については、御野学区連絡協議会での情報交換や、中学生専用の定期バスの乗車指導・通学指導などの登下校指導の実施などを行いました。</p> <p>■教育相談室・保健室との連携 担任や生徒指導課と教育相談室及び保健室が綿密に連絡を取り、必要のある生徒に関する「ケース会議」を開きながら、それぞれの生徒にあった指導を進めました。クラス担任が窓口にはなりますが、中学の先生方全体でフォローしながら指導を強化しました。</p>
<p>社会との協働で、生徒の視野が広くなり常識的な習慣を身につけられるように、社会との繋がりを強化します。【2-1】</p>	<p>■社会性規範育成への取組 社会的なモラルを踏まえて外部講師による講演などを活用し、規範意識の啓蒙に努めます。学校独自としての規則だけではなく、アクティブラーニングやプレゼンテーションの指導を通じ、その場の状況に適した言動が取れるよう、常日頃から生徒への指導や話し合いを行います。</p> <p>■情報教育 生徒のインターネットリテラシーの現状を踏まえ、情報モラルの向上に努めます。その一環として岡山県警察本部より講師を招き、「インターネットモラル教育」の講演を実施します。また、SNS等個人情報への適切な扱いを指導します。</p>	<p>■社会性規範育成への取組 外部講師による講演などを活用し、規範意識の啓蒙に努めました。学校独自としての規則だけではなく、アクティブラーニングやプレゼンテーションの指導を通じ、その場の状況に適した言動が取れるよう、常日頃から生徒への指導や話し合いを行いました。</p> <p>■情報教育 生徒のスマートフォン所有率が高くなり、それに伴い SNS でのトラブルがおこりますので、道徳授業やホームルームでの指導を通じて情報モラルの向上に努めました。その一環として岡山県警察本部より講師を招き、「インターネットモラル教育」の講演を実施しました。</p>

Ⅲ. 国際化について

1. 国際理解と国際力向上に関する中期目標		
中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
<p>国際化を日常的なものにとらえ、多様な教材等を使用し語学の伸長に対応できる工夫をします。【3-1】</p>	<p>■論理力向上のための取り組み 国語授業の中で「論理エンジン」を副教材として取り扱い、論理的な文構成の把握や文章作成の能力を養います。また「論理文章能力検定」や「作文検定」を受検し、論理的思考力・表現力の定着度を図ります。</p>	<p>■論理力向上のための取り組み 国語授業の中で「論理エンジン」を副教材として取り扱い、論理的な文構成の把握や文章作成の能力を養いました。また「国際標準論理文章能力検定」や「作文検定」を受検し、論理的思考力・表現力の定着度を図り、作文検定は各学年の目標級を全員取得しました。</p>
	<p>■英会話 英会話を1～3年生の全クラスで実施し、自ら積極的にコミュニケーションをとれる姿勢を養います。また、1年生から大学入学共通テストを見越し、4技能（聞く、話す、読む、書く）に対応したケンブリッジ大学英語検定機構が発刊するコースブックを取り入れています。</p> <p>■実用英語技能検定・漢字能力検定を全生徒に実施</p> <p>(1) 1年在籍生徒の9割以上が5級以上の取得を目標とします。</p> <p>(2) 2年在籍生徒の8割以上が4級以上の取得を目標とします。</p> <p>(3) 3年在籍生徒の6割以上が3級以上の取得を目標とします。</p> <p>(4) 教員が生徒に対し、積極的に受験指導を行います。</p> <p>■ケンブリッジ英語検定の Key English Test を1・2年生希望者に実施</p> <p>(1) 1年修了時にはCEFRのA2レベルをクリアすることを目標にします。</p> <p>(2) 2年修了時にはCEFRのB1レベルをクリアすることを目標にします。</p> <p>(3) CEFRのB1レベルをクリアした生徒にはEnglish Preliminaryの受験を勧めます。</p>	<p>■英会話 1年生から4技能（聞く、話す、読む、書く）に対応したケンブリッジ大学英語検定機構が発刊するコースブックを使用して大学入学共通テストに備えた指導を行いました。</p> <p>■実用英語技能検定・漢字能力検定を全生徒に実施</p> <p>(1) 英検は1年在籍生徒の9割以上、漢検は1年在籍生徒の7割以上が5級以上を取得しました。</p> <p>(2) 英検は2年在籍生徒の6割以上、漢検は2年在籍生徒の4割以上が4級以上を取得しました。</p> <p>(3) 英検は3年在籍生徒の6割以上が、漢検は3年在籍生徒の5割以上が3級以上を取得しました。</p> <p>(4) 教員が生徒に対し、積極的に受験指導を行いました。</p> <p>■ケンブリッジ英語検定の Key English Test を1・2年生希望者に実施</p> <p>(1) 1年修了時にCEFRのA2レベルをクリアすることを目標に指導しました。</p> <p>(2) 2年修了時にCEFRのB1レベルをクリアすることを目標に指導し、クリアしました。</p> <p>(3) 3月に予定していたTOEFL Primary Testは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休業になったため、中止しました。(次年度受験予定)</p>

IV. 組織・運営について

1. 組織力の向上に関する中期目標		
中期計画	令和元年度事業計画	令和元年度事業報告
<p>学校の方向性に対して教職員が一丸となり、ベクトルが一つになるような組織作りを目指します。【4-1】</p>	<p>■学校運営会議の強化 校長、教頭、事務部長、並びに校務分掌の課長で組織する運営会議において、学校全体の運営方針に基づき、学校運営が円滑にかつ革新的に進むよう、学校業務の企画立案および連絡調整を強化します。</p>	<p>■学校運営会議の強化 毎週木曜日に運営会議を開催し、学校運営が円滑にかつ革新的に進むよう、学校業務の企画立案および連絡調整を強化しました。</p>

V. 内部質保証について

1. 内部質保証システム体制の確立に関する中期目標		
中期計画	中期計画	中期計画
<p>内部質保証システム体制の確立と第三者評価を導入します。【5-1】</p>	<p>■生徒による授業評価・教員自身による授業評価 確かな学力を育むために、教員の授業改革が生徒にどのように受け止められているのかを知り、生徒の側から捉えた授業改善を進めるとともに、教員自らが自己評価を行いながら改善点を明らかにして、授業改善に活かします。</p>	<p>■生徒による授業評価・教員自身による授業評価 7月と12月に、生徒の側から捉えた授業評価を実施しました。その結果を教科担任にすぐ返し、各教員はそれをもとに授業改善を進めています。</p>
	<p>■授業計画書の作成 全科目の授業計画書を作成し、授業内容及び授業進度を生徒・保護者が理解できるようにし、円滑な学習活動を助けます。</p> <p>■考査関係 定期考査の成績処理終了後、各教科各学年の学習定着状況を把握し、授業計画書を見直します。</p> <p>■成績評価基準の見直し 観点別評価のルーブリックを各教科で整備して、「知識・理解」に偏った評価にならないよう、授業中の活動や課題提出なども正当に評価し、生徒が主体的に学ぶことができるような教育改革を進めます。</p>	<p>■授業計画書の作成 全科目の授業計画書を作成し、4月当初に配布することで、授業内容及び授業進度を生徒・保護者が理解できるようにしました。</p> <p>■考査関係 定期考査の成績処理終了後、各教科各学年の学習定着状況を、各教科で分析をして指導の改善につなげるようにしました。</p> <p>■成績評価基準の見直し 観点別評価のルーブリックを今年度全面的に見直して、各教科で整備して実施しました。授業中の活動や課題提出なども正当に評価し、生徒が主体的に学ぶことができるような教育改革を進めています。</p>

Ⅵ. 運営・財政基盤について

1. 志願者増加への強化に関する中期目標		
中期計画	中期計画	中期計画
<p>情報提供を一層強化します。【6-1】</p>	<p>■情報提供</p> <p>(1) オープンスクールや理科実験教室のアンケートによれば、参加動機の上位には常に「小学校からの案内」がランクインしています。小学校の自由研究系課題とリンクさせた企画内容を維持するとともに、印刷物等により案内を行います。</p> <p>(2) オープンスクールや入試だけでなく、学校の情報をホームページ、Facebook や学園で取り組んでいる News 2u でも、迅速に幅広く提供します。さらに、直前には新聞等の告知を行い、生徒数の確保に努めます。</p>	<p>■情報提供</p> <p>(1) 今年度のイベントアンケートにおいても、参加動機の上位には常に「小学校からの案内」がランクインしていました。小学校の自由研究系課題とリンクさせた企画内容を維持するとともに、印刷物や学校ホームページ、Facebook 等により案内を行いました。</p> <p>(2) オープンスクールや入試だけでなく、学校の情報をホームページ、Facebook で、迅速に幅広く提供しました。さらに、直前には新聞等（冊子媒体3回実施済）の告知を行いました。生徒数の確保に努めました。</p>
<p>塾との信頼関係をより一層強化します。【6-2】</p>	<p>■塾との関係の強化</p> <p>中学校入試における私塾の影響力は大きく、多様化する生徒・保護者の進路実現に向けて、各塾に対しタイムリーな情報発信をします。</p> <p>従来の塾訪問に加えて「通勤経路型塾訪問」を実施し、それぞれの塾に本校教職員の担当固定化を行い、相当数の塾訪問を計画し、円滑に実施します。さらに、入試結果を踏まえた塾対象入試説明会を6月中旬に実施予定です。</p>	<p>■塾との関係の強化</p> <p>多様化する生徒・保護者の進路実現に向けて、各塾に対しタイムリーな情報発信をしました。</p> <p>従来の塾訪問に加えて「通勤経路型塾訪問」を実施し、それぞれの塾に本校教職員の担当固定化を行い、各種イベントの前や入試出願前に塾訪問を実施しました。特に重点的に広報活動を行う塾を決め、ていねいなアプローチを進めました。</p> <p>さらに、入試結果を踏まえた塾対象入試説明会を6月18日に実施しました。</p>
<p>イベントの内容を充実します。【6-3】</p>	<p>■広報企画</p> <p>昨年度も実施した「県立中学校適性検査型対策講座」等には多くの児童保護者の参加がありました。今年度も継続実施し、引き続き本校教員の各入学試験分析力と入学試験作題力の向上を目指します。</p> <p>また、学校見学（個別オープンスクール）にて、児童保護者に対し平素の学校を見学する機会を設け、3年生で開講している学校設定科目「理科実験」の見学を積極的に呼びかけます。</p> <p>① 県立中学校適性検査型早期対策講座（5月）</p> <p>② 県立中学校適性検査型対策講座（10月）</p>	<p>■広報企画</p> <p>昨年度も実施した「県立中学校適性検査型対策講座」等には多くの児童保護者の参加があり、今年度も継続実施したところ昨年度よりも多くの参加がありました（約550名参加）。また、問題解説付き入試模試には200人を超える参加を得ました。</p> <p>また、今年度新たに「論理教室」を実施し、多くの受講者を集め、この中からオープンスクールや入試受験につなげることができました。</p> <p>① 県立中学校適性検査型早期対策講座（5月25日）</p> <p>② 県立中学校適性検査型対策講座（10月19日）</p>

	<p>③ オープンスクール (7月、8月) (本校教員による参加体験型授業)</p> <p>④ 理科実験教室 (6月、8月) (岡山理科大学教員による参加体験型授業)</p> <p>⑤ トワイライト天体観測会 (9月)</p> <p>⑥ ホームページ・Facebookの更新… 見やすく、分かり易い内容に改善、 研究。</p> <p>⑦ 学校新聞「VIVA 理中」を年2回発行</p> <p>⑧ 募集要項・・・8月中旬までに完成 を目指します。</p>	<p>③ 教科型入試対策講座 (11月4日)</p> <p>④ オープンスクール (7月28日、8月25日) (本校教員による参加体験型授業)</p> <p>⑤ 理科実験教室 (8月25日) (岡山理科大学教員による参加体験型授業)</p> <p>⑥ 論理教室 (6月1日、15日、29日、7月13日)</p> <p>⑦ トワイライト天体観測会 (9月20日)</p> <p>⑧ ホームページ・Facebookの更新…見や すく、分かり易い内容に改善するため、ホ ームページリニューアルを計画していま す。</p> <p>⑨ 学校新聞「VIVA 理中」・・・発行なし</p> <p>⑩ 募集要項・・・9月上旬に完成しまし た。</p>
入試制度を検証 します。【6-4】	<p>■入試制度の検証</p> <p>昨年度、新規に追加した推薦入試(調査書型)では、多くの出願がありましたが、入試制度全体を含め検証し、さらなる受験生増につながる入試制度の策定に取り組みます。</p>	<p>■入試制度の検証</p> <p>昨年度からスタートした推薦入試(調査書型)での出願が増加し、合格者の中で入学手続き者が前年に比べて増えました。他校との競合状況も変化していますが、本校に目を向けてくださる動きが出てきています。</p>

主な行事

4月8日	始業式
4月9日	入学式
4月25日	健康診断
4月27日	授業参観
5月25日	PTA 総会
5月29日～31日	修学旅行
6月14日	音楽鑑賞
9月14日	体育祭(岡山ドーム)
9月28日	爽凜祭(学習発表会)
12月19日	百人一首大会
1月30日、31日	校外活動
3月14日	卒業式(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)
3月15日～23日	海外研修(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)
3月19日	終業式(3月2日から臨時休業のため中止)

学生・教職員数

■在籍生徒数

(令和元年5月1日現在)

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
岡山理科大学附属中学校	80	51	240	125

(単位：人)

■教職員数

(令和元年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員 計
1※	1	11	12

事務職員
1

※校長は附属高等学校と兼任

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	平成30年度 決算額	令和元年度 決算額
教育活動 収支	収入	学生生徒等納付金	62,672	70,226
		経常費等補助金	51,574	52,711
		その他収入	4,216	3,121
		計	118,462	126,058
	支出	人件費	125,713	119,455
教育研究経費		27,507	23,667	
管理経費		14,071	11,676	
その他支出		1	0	
計	167,292	154,798		
教育活動収支差額			△ 48,830	△ 28,740
教活外	収入	受取利息等	0	1
	支出	借入金利息等	0	0
	教育活動収支差額		0	1
経常収支差額			△ 48,830	△ 28,739
特別	収入	資産売却差額等	8	1,303
	支出	資産処分差額等	0	0
	特別収支差額		8	1,303
基本金組入前収支差額			△ 48,822	△ 27,436
基本金組入額合計			0	△ 2,261
当年度収支差額			△ 48,822	△ 29,697